

市内遺跡発掘調査報告書

(平成21年度)

—長野県諏訪市内遺跡発掘調査報告書—

2010. 3

諏 訪 市 教 育 委 員 会

例 言

1. 本書は、長野県諏訪市内遺跡の平成21年度発掘調査報告書である。
2. 本調査は、諏訪市教育委員会が調査主体者となり、諏訪市教育委員会の編成する諏訪市遺跡調査団が調査を担当した。
3. それぞれの現場における調査期間は、遺跡ごとに記載してある。報告書作成作業は平成22年1月から平成22年3月まで、諏訪市埋蔵文化財整理室で行った。
4. 本文中における水系レベルは可能な限り絶対標高を使用している。
5. 現場における記録と整理作業の分担は次の通りである。
遺構等実測……………中島透・赤堀彰子
遺物水洗・注記作業……………赤堀・神奴勝正・徳光宣子・古畑しずゑ・宮坂明芳
遺物写真撮影……………神奴 遺物実測……………赤堀・神奴・古畑・宮坂・中島
遺構・遺物トレース……………中島 図面写真整理……………中島
6. 本書の編集については諏訪市教育委員会事務局が担当した。
7. 調査の記録は、諏訪市教育委員会で保管している。
各遺跡の略称および出土遺物の注記は以下の通りである。
穴場遺跡…AN15 笏田遺跡…MMD 綿の芝遺跡…WAT 柳口周辺遺跡…YNG3
金子城跡遺跡…KNJ8
8. 発掘調査および報告書作成に際し、調査・整理作業参加者のほかに下記の方々をはじめ多くの方々にご指導・ご教示を得た。記して感謝申し上げる。(順不同、敬称略)
牧 友昭 宮野孝樹・宮野はな 三井政志 伊藤貴之 伊藤均史 (株)大同建設 旭不動産 藤田香
青木正洋 宮坂美樹 諏訪市こども課 諏訪市都市計画課 長野県教育委員会文化財・生涯学習課

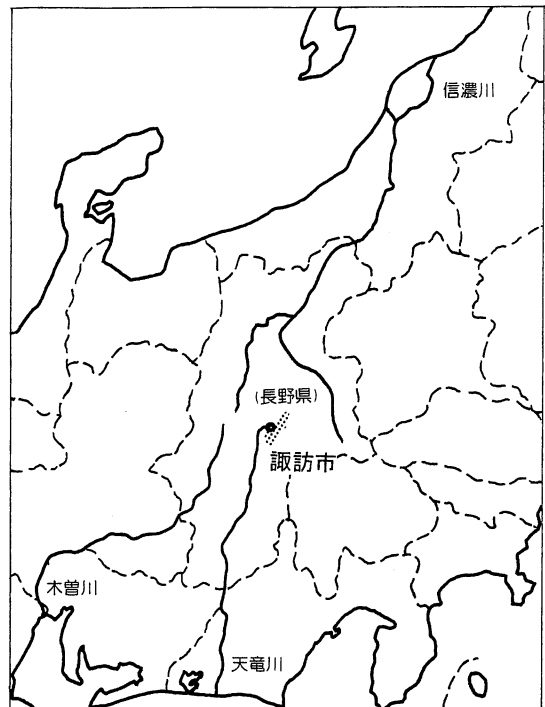
(目次)

例言・目次

| | |
|--------------------------|----|
| I. 市内遺跡発掘調査について…………… | 1 |
| II. 穴場遺跡発掘調査(第15次)…………… | 3 |
| III. 笏田遺跡試掘調査…………… | 11 |
| IV. 綿の芝遺跡試掘調査…………… | 12 |
| V. 柳口周辺遺跡試掘調査(第3次)…………… | 14 |
| VI. 金子城跡遺跡試掘調査(第8次)…………… | 16 |

報告書抄録

写真図版



I 市内遺跡発掘調査について

1 今年度の発掘調査

諏訪市内には現在220箇所以上にのぼる埋蔵文化財包蔵地が確認されている。これらの遺跡内における開発行為は例年発生しているが、以前に多かった規模の大きな事例は年々少なくなり、最近では個人住宅などの小規模なものが主体となっている。諏訪市教育委員会ではこれらの開発行為に迅速に対応するため、諏訪市遺跡調査団を編成し、国庫補助事業として「市内遺跡発掘調査事業」を実施し、埋蔵文化財の保護を図っているところである。

本年度は、埋蔵文化財包蔵地内での開発行為に伴う発掘届および通知の提出は17件あり、例年になく届出が多かった昨年度と比べるとやや減少はしたが、それでも多い件数となった。特に本年度は8月に豪雨災害が発生したため、その復旧事業に伴う届出が多かったことも特徴である。これらのうち、7件について試掘・確認調査を実施し、その内1箇所は本発掘調査となり、それぞれ成果を挙げることができた。ここに、その内容について報告したい。なお、試掘調査の内の2箇所（漆垣外遺跡・大ダッシュ遺跡）については年度末近くの調査であったため、整理および報告は翌年度とする。

・補助事業決定の経過（抄）

平成21年2月18日付け20生学文第105号

平成21年度国宝重要文化財等保存整備費補助金交付申請書 市内遺跡発掘調査事業（国庫）

平成21年4月1日付け21庁財第8001号（21教文1-13号）

平成21年度国宝重要文化財等保存整備費補助金交付決定通知 市内遺跡発掘調査事業（国庫）

2 調査組織

諏訪市遺跡調査団（平成21年度）

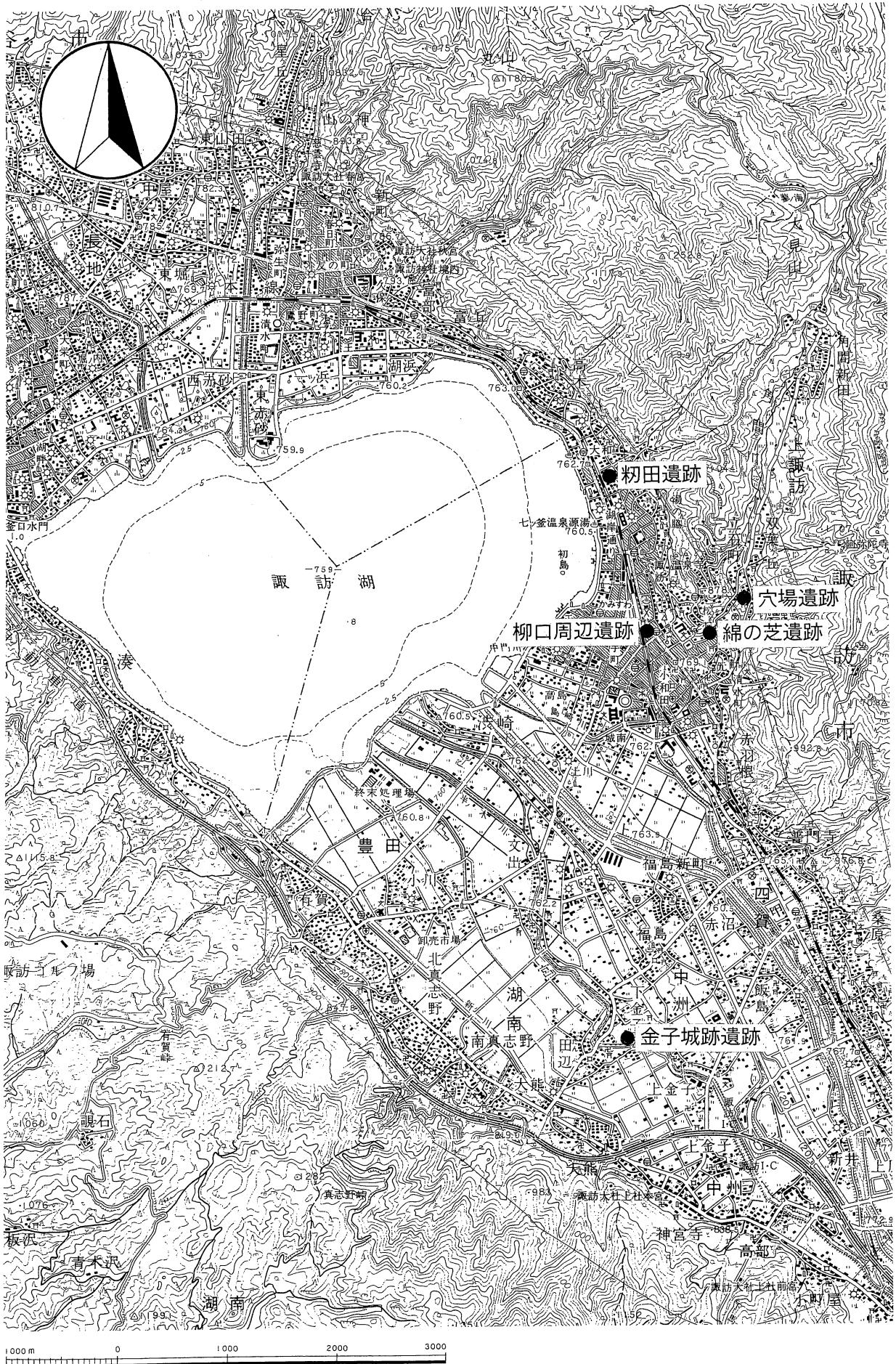
団 長 細野 祐 （諏訪市教育委員会 教育長）
副団長 宮坂 廣司 （諏訪市教育委員会 教育次長）
宮坂 光昭 （諏訪市文化財専門審議会委員）
調査担当 中島 透 （諏訪市教育委員会学芸員）

調査団員（調査参加者）

赤堀彰子・神奴勝正・徳光宣子・古畑しずゑ・宮坂明芳

（事務局）

事務局長 岩波 弘之 （諏訪市教育委員会 生涯学習課長）
事務主幹 五味 裕史 （諏訪市教育委員会 生涯学習課文化財係長）
事務局員 小林 純子・中島 透（諏訪市教育委員会 生涯学習課文化財係）



第1図 平成21年度報告遺跡位置図 (1/50000)

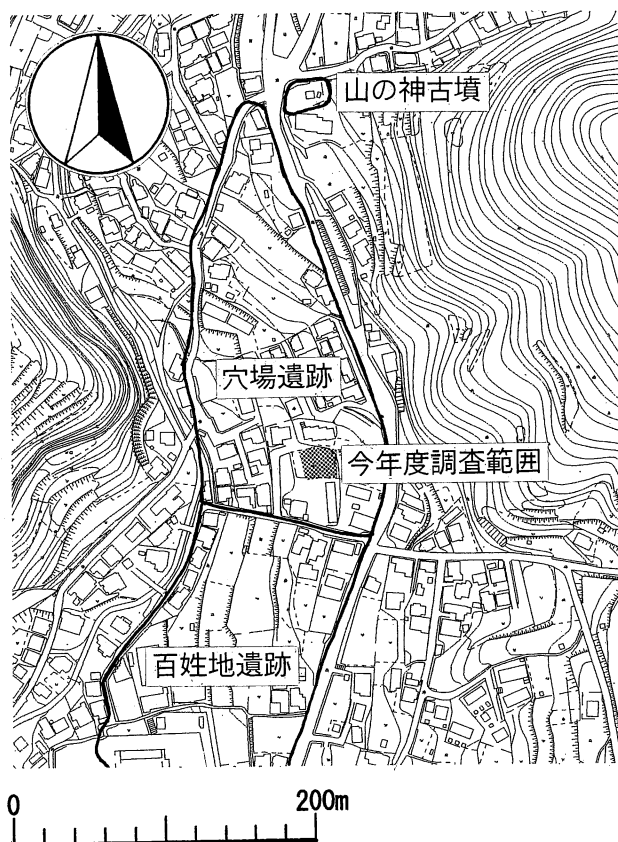
Ⅱ 穴場遺跡（第15次）

- | | | | |
|---------|-----------------|---------|-------------------------|
| 1. 所在地 | 諏訪市上諏訪6307 | 5. 調査担当 | 中島 透 |
| 2. 調査期間 | 平成21年7月29日～9月1日 | 6. 検出遺構 | 焼土址、ピット、床状遺構 |
| 3. 調査面積 | 56.2㎡ | 7. 出土遺物 | 土器・陶器片（縄文～中世） |
| 4. 調査目的 | 個人住宅建設に先立つ発掘調査 | | 石器、黒耀石片（縄文） 金属製品（古代） |

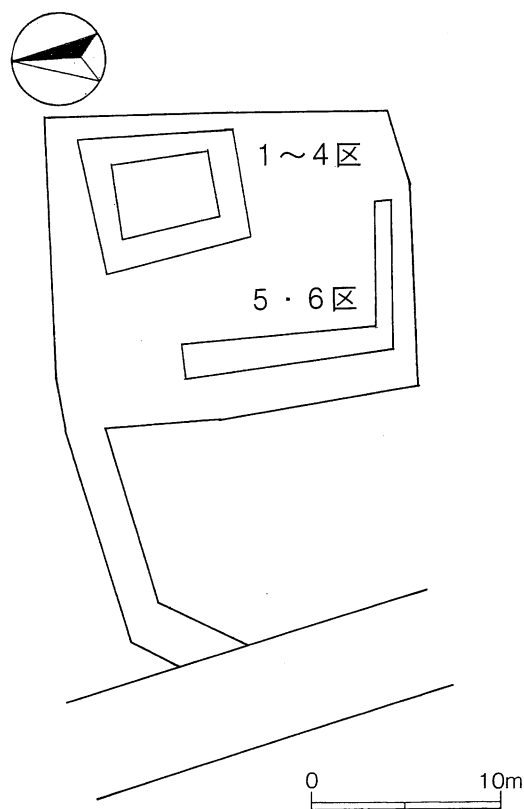
8. 調査概要

本遺跡は諏訪市の東側、霧ヶ峰の麓から諏訪盆地へ流れ込む角間川左岸の緩斜面上に位置する（第2図）。本遺跡の南側には隣接して百姓地遺跡が続き、また北側の斜面地には唐沢遺跡が存在するなど、周辺には大きな遺跡が集中している地域である。本遺跡ではこれまでに14次にわたる調査が行われているが、特に昭和57年の第5次調査ではほぼ完形の蛇体装飾文付釣手土器をはじめ祭祀的性格の強い住居跡や遺物が出土するなど、市内有数の規模を誇る縄文時代の集落遺跡として知られている。

今回、遺跡南側中央部の畑地で個人住宅の建設が計画された。これまでの調査データ等から、特に平安時代および縄文時代の遺構が良好に残されていることがほぼ確実と予想されたため、事業者等と協議を重ねた結果、記録保存のための発掘調査を行うこととなった。

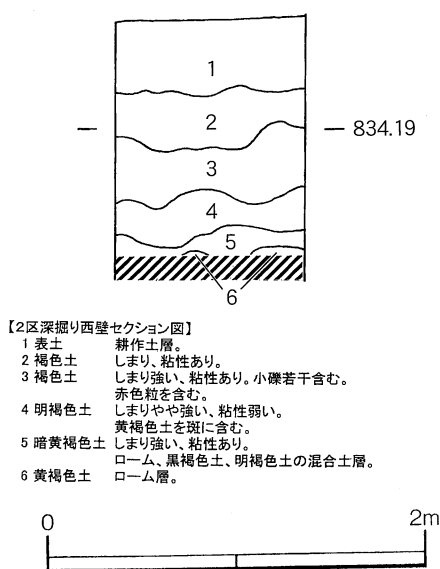


第2図 遺跡位置図（1/5000）



第3図 調査区位置図（1/400）

調査はまず対象地の住宅建設予定位置内に2m×2mのグリッドを2箇所(No.1、2)、擁壁工事予定位置内に1箇所(No.3)設定し土層の状況を確認することから開始した。その結果、No.1グリッドではまず地表より約70cmのところまで時期不明の焼土址が出土し、さらに掘り進めると約140cmの深さでようやくローム層に達し、縄文時代と見られる遺構が検出された。一方のNo.2グリッドでは、約160cmまで掘り進めても褐色土が続き、No.1グリッドで検出されたような縄文時代の土層(ローム層)には到達せず、非常に厚い明～褐色土の堆積があることが判明した。No.3グリッドでは約70cmのところまで非常に硬質の平坦な面が検出され、何らかの遺構と考えられたため、それ以上の掘り下げはしないこととした。これらから縄文時代の層は南側と西側とに向かって傾斜していることが想定される。基本土層を第4図に示した。



第4図 基本土層図 (1/40)

当初、住宅部分については全面的な本発掘調査を行う必要があるとの認識で調査に入ったが、この結果を受けて改めて協議したところ、住宅の基礎工事による掘削はこの明～褐色土内で収まり、本遺跡で最も注目される時期の一つである縄文時代の土層は良好に保存されることが可能となったため、基礎部分および西・南側の擁壁工事で破壊される地表下70cmまでの部分について記録保存のための発掘調査を行うこととし、全面発掘の予定を一部変更して調査を続行した。

【発見された遺構】

調査は住宅部分と擁壁部分とで調査地内で大きく2箇所に分けられる(第3図)。住宅部分については、基礎工事の工法から周縁部分が深く掘削され、その内側はほとんど影響がないため、No.1グリッドとNo.2グリッドを取り込むような形で、幅2mの、口の字状の調査範囲となった。これを便宜的に各辺ごと逆時計回りに1区～4区として調査を行った(第5図)。

1区では、前述した焼土址が1基検出された。これは直径160cmほどの円形を呈するもので、焼土は25cmの堆積があったが掘り込み等の痕跡ははっきりとは見られない。当初、石を伴って検出されたため、住居址のカマドと考えられたが、精査した結果、単独の焼土址と判明した。時期は不明である。1区中央部分ではピットと思われるプランが検出されたが精査の結果、遺構ではなく木根と判断された。なお、本区の北側隅にNo.1グリッドが位置するが、本グリッドで発見された縄文時代のピットと思われる遺構については土嚢で保護措置を講じたうえで埋め戻し現状保存とした。

2区は6基のピットが検出された。これらはいずれも直径40cmほどで、深さは20cm前後と比較的浅く、おおよそ共通している。ピット内から若干の遺物が出土しているが、時期は混在しており、遺構の時期は不明である。なお、2区西側隅で土層確認のために1m四方の深掘りを行ったところ、約140cmのところまでローム層に達している。ただし遺構は検出されなかった。

3区は中央やや南側で焼土址が1基検出されている。直径90cmほどで、1区のものと同様明確な掘り込みのような痕跡は見られない。なお、本区の南側隅にNo.2グリッドが位置するが、前述の通り厚い明～褐色土の堆積が認められ、縄文時代の層までは達していない。

4区では特に遺構は発見されなかったが、東側ではほぼ完形のカワラケが、また壁中で刀子がそれぞれ出土している。ただし遺構のようなものは伴わなかった。また精査中に刀子付近からガラス玉も出土している。

調査区西側では擁壁工事が計画されていたため、西側の隣地との境に沿ってNo.3グリッドを延長するかたちで南北にトレンチ状の調査区を設け、これを5区とした(第3、8図)。No.3グリッドで検出された硬化面については北側に広がりを持つことが判明したが、調査範囲の制約もありその性格を判断する材料は得られなかったが、仮に床状遺構としておきたい。またこの硬化面に隣接して焼土址が2基検出された。5区では1～4区と違い比較的同レベルで遺物が多く出土したが、遺物の時期は混在しており、何らかの生活面とは判断できない。なお、5区北側末端部分で2区同様土層確認のために1m四方の深掘りを行ったところ、約160cmでローム層に達し、縄文時代と思われる遺構が一部検出されたため、土嚢で保護措置を取って埋め戻した。

南側の隣地との境も擁壁となる予定のため、5区の南側末端から東側に向けてL字状に調査区を拡張し、これを6区とした(第3、9図)。6区で最も特筆すべき点は大量の礫が出土していることで、一定程度平面的な広がりをも示している。他の調査区でも礫は出土したが、これほど集中して出土してはおらず、極めて特異な状況を示している。礫中には石棒を転用した凹石や石皿が含まれていた。土層の傾斜に沿って分布しているため何らかの流れ込みと判断したが、注意を要するものと思われる。なお、本区でも東側末端部分で土層確認のため深掘りを行ったところ、約160cmまで掘り進めてもロームには達せず、No.2グリッドと同様に非常に厚い土層の堆積が確認された。礫が集中していることもあり、本遺跡北側は谷状地形が埋没している可能性もある。

以上のように、1区～4区では2基の焼土址と6基のピットが検出された。時期はいずれも判然としないが、土層の状況や遺物等から勘察して中世～近世のものではないかと推測される。5～6区は床状遺構および焼土址が検出されたが、これら遺構についてはなお手掛かりがなく不明である。

【発見された遺物】

遺物は各時期にわたって出土している。主なものを第13図～15図に示した。

第13図には土器を示した。1～27は縄文土器である。1は小片ながら山形押型文土器である。今回の調査では他にも若干、押型文と思われる土器片が出土している。2は前期、3～20は中期、21～27は後期の土器を示した。11は今回出土した土器片では最大で、大型の深鉢の一部である。24は注口土器である。

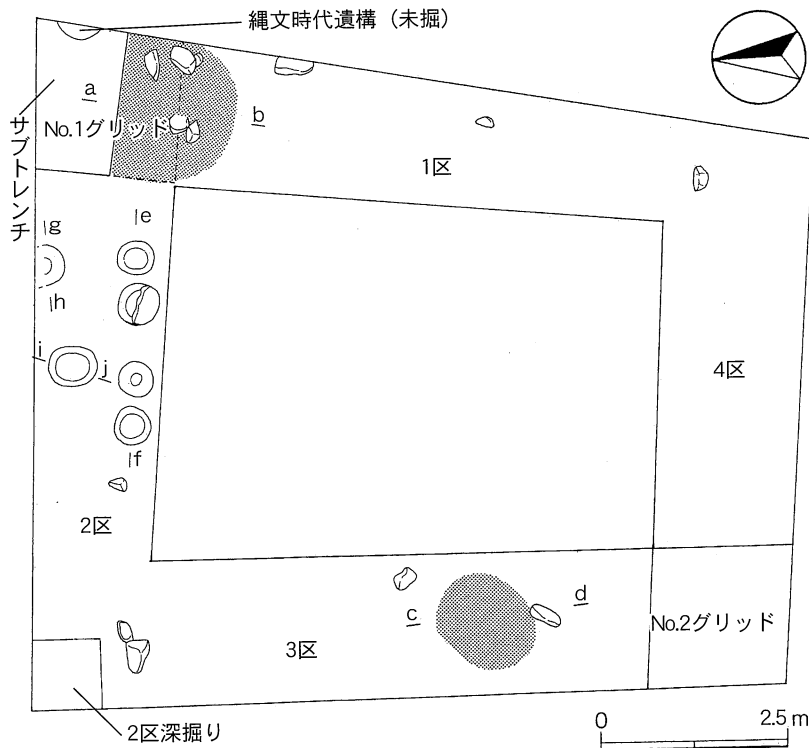
28は弥生土器である。小片のため詳細不明だが横位に櫛描文が施されている。

29～32は土器片錘である。30～32は縄文中期中葉と見られる土器片を用いており、特に30は土器片両端部の他に両側縁部にも抉りが入っている。29は破片の割れ口に全てではないが加工が施されており、土器片錘の未成品と思われる。

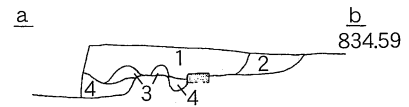
第14図は石器を示した。1・2は石皿である。1は6区の礫集中部の中央付近から出土した。下半1/3ほどを欠損している。表側にはベンガラと見られる赤い彩色が残っている。

3は断面が緩やかな四角を呈し、全体的によく磨られており、石棒の一種と見られる。

4～7は凹石である。7は円形で気泡が多く柔らかい石質であるが、5・6は硬質で、四角形を呈する。5はその表裏両面に凹みを有する。4はもともと石棒かその未成品と思われ、断面は半月状を呈す

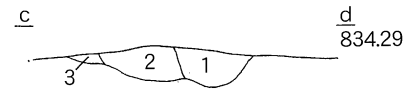


第5図 1~4区平面図 (1/80)



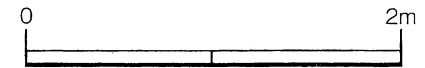
【1区焼土址セクション図】

- 1 褐色土 粘性、しまり強い。焼土、木炭粒を含む。
- 2 褐色土 1層に似るも焼土含まず。
- 3 明褐色土 しまり非常に強い、粘性あり。赤色粒を含む。
- 4 暗褐色土 しまり、粘性あり。赤色粒、木炭粒若干含む。

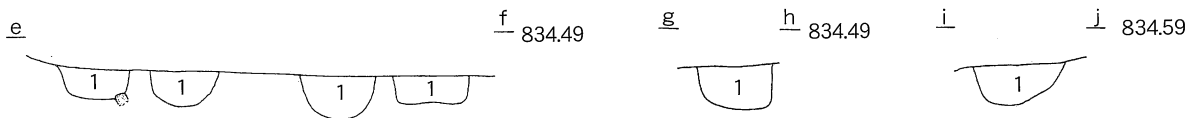


【3区焼土址セクション図】

- 1 暗褐色土 しまり、粘性弱い。ややフカフカした土。焼土粒をわずかに含む。
- 2 赤褐色土 焼土の層。しまり強い、粘性弱い。褐色土を斑に含む。
- 3 褐色土 1層に似るもやや明るい。



第6図 焼土址セクション図 (1/40)

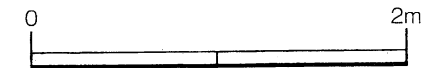


【2区1~4号ピットセクション図】

- 1 褐色土 しまり弱い、粘性ややあり。

【2区5・6号ピットセクション図】

- 1 褐色土 1~4号ピット1層に似るも、黄褐色土をブロック状に含む。



第7図 ピットセクション図 (1/40)

る。その表面の2箇所に凹みがあり、石棒を転用した凹石とした。6区の東側隅から出土。

8は打製石斧である。折損しており、基部側の1/3程度の部分と思われる。

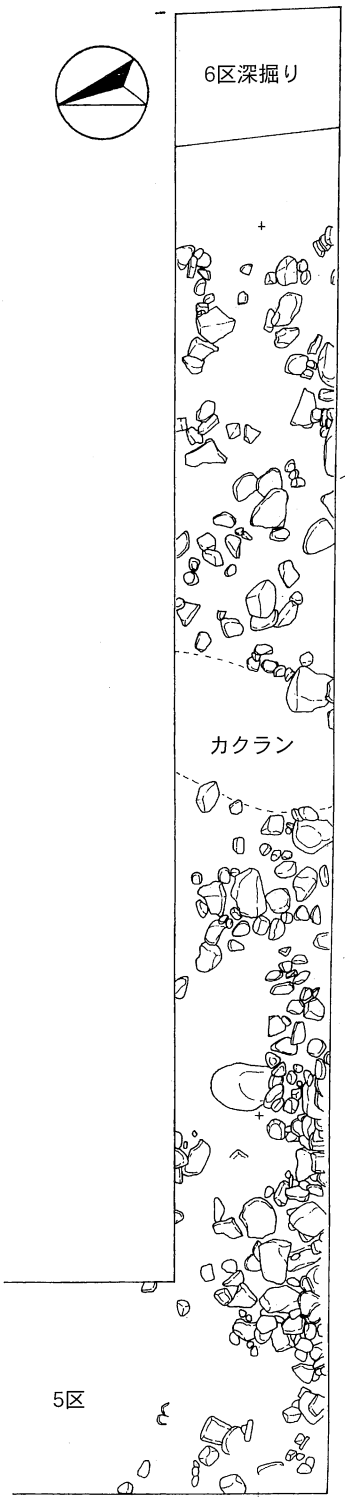
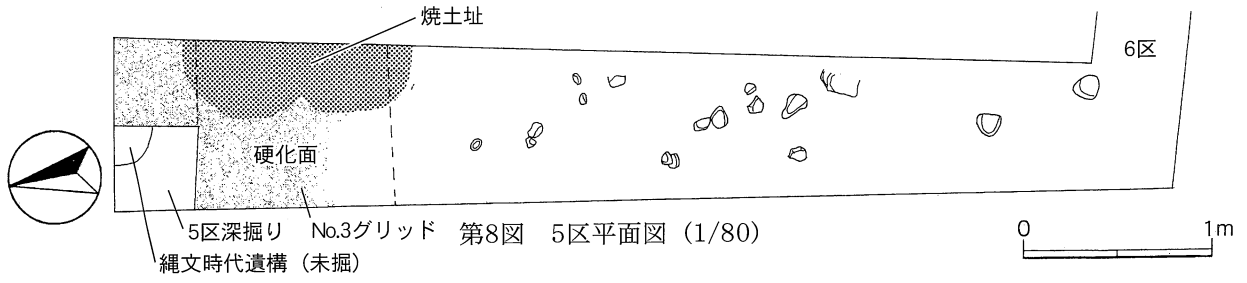
9は二次調整石器である。飴色を呈する石質で、これは本遺跡はもちろん、近隣の遺跡の出土資料からしても珍しい石材である。横長剥片を用い、表裏両面の縁辺部に粗い加工を施している。全体的に篋状の石器のようでもあるが、加工がやや粗雑でもあり、とりあえずこの分類としておきたい。

10~13は石鏃である。いずれも黒耀石製で、さまざまなバリエーションがあり、11は非常に小型ながら茎を持つ有茎石鏃である。10は形状や周辺調整の状況から石鏃の未成品と思われる。

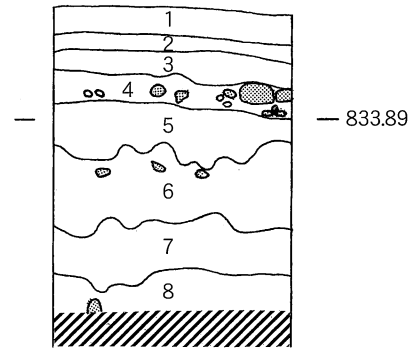
第15図は古代以降と見られる遺物を示した。1~3は須恵器である。いずれも小破片であるが、頭上復元を行った。1は口径14cm、2は15cmの碗とみられる。

4・5はカワラケである。4は口径13cm、高さ3.6cmでやや深さがある。5はほぼ完形で、底の部分に穿孔が施されているのが特徴である。全体的に大きく磨滅しており、流れ込みによるものと思われる。

6~9は土錘である。さまざまなサイズがあるが、6は4.6cmあり今回出土した土錘の中で最も長く優美である。7も片方の先端が欠損しているのもともとは6に近いサイズがあったものと思わ

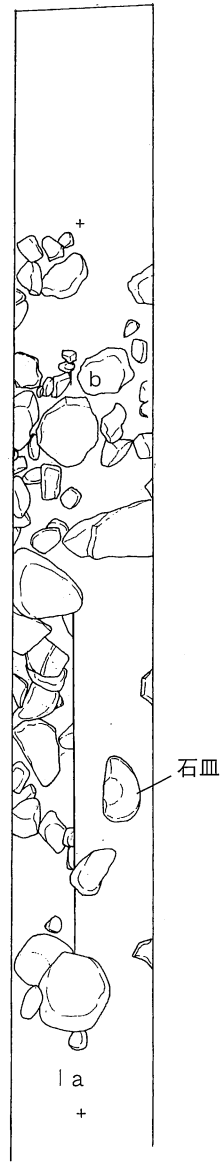


第9図 6区平面図 (1/40)

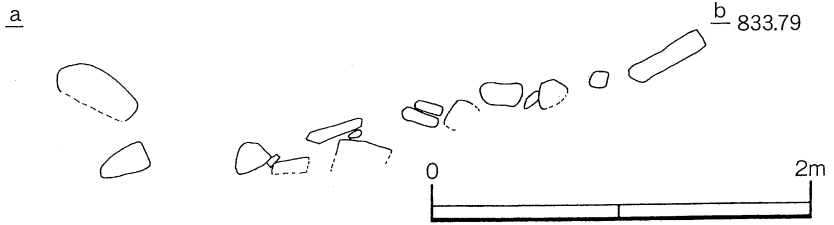


- 【6区深掘り東壁セクション図】
- 1 表土 耕作土層
 - 2 明褐色土 しまりあり、粘性弱い。灰褐色土
 - 3 褐色土 しまりなし、粘性弱い。小礫を含む。
 - 4 茶褐色土 しまりあり、粘性弱い。大量の礫含む。
 - 5 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。きの細かい土。
 - 6 褐色土 しまり強い。木炭粒、小礫含む。
 - 7 暗褐色土 6層に似るもやや色調暗い。
 - 8 黒褐色土 7層に似るも暗みを増す。

第10図 6区深掘りセクション図 (1/40)



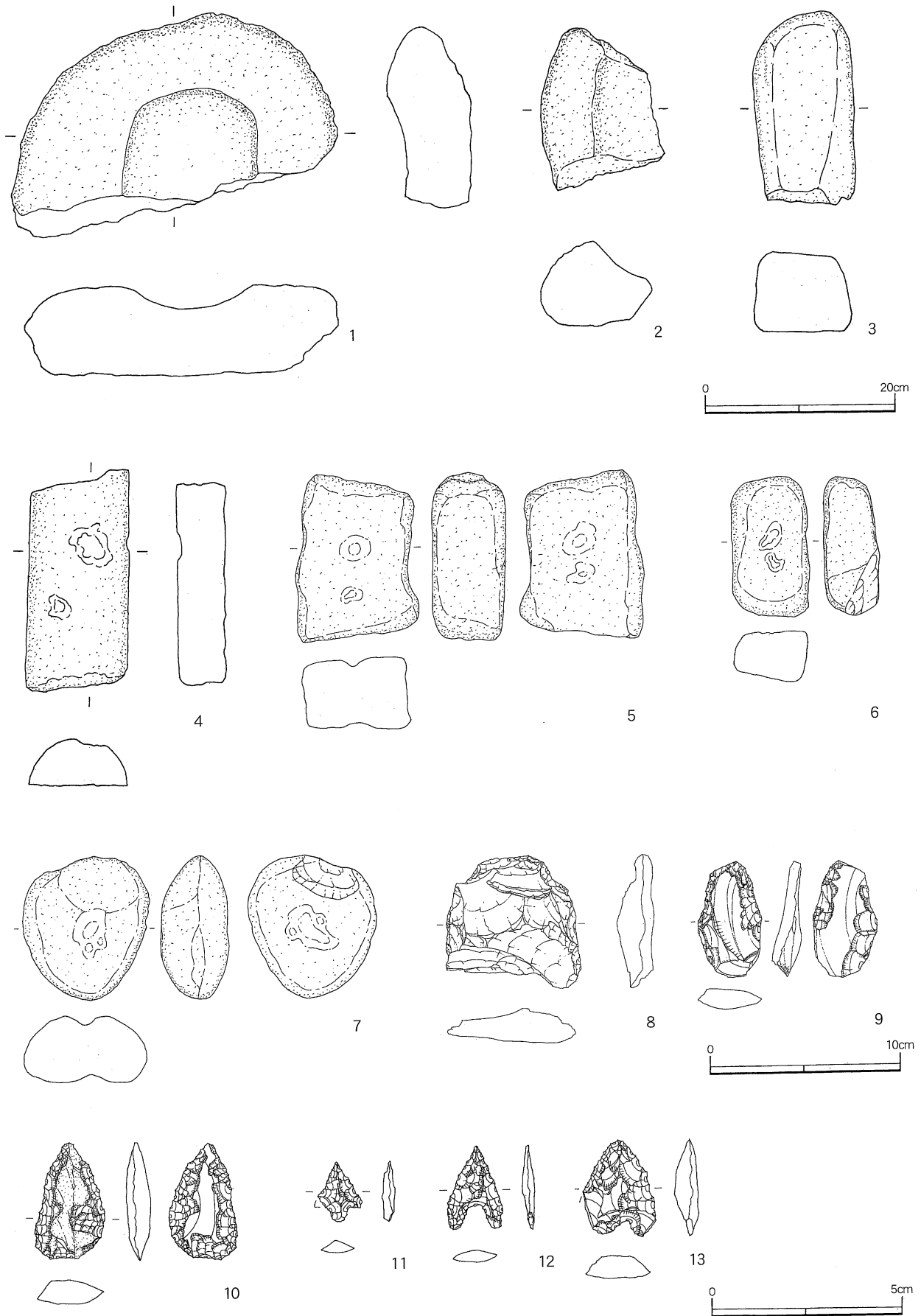
第11図 6区礫集中箇所掘り下げ状況 (1/40)



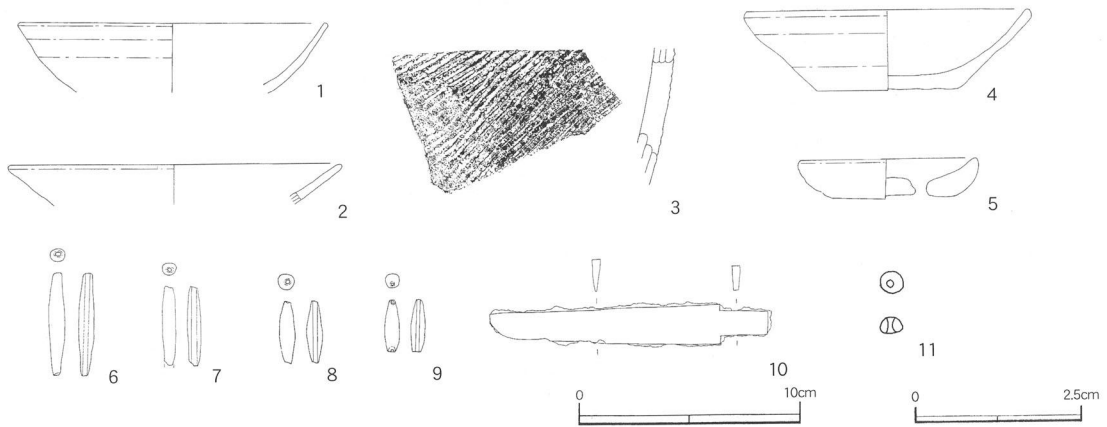
第12図 6区礫集中箇所エレベーション図 (1/40)



第13図 遺物実測図1 (1/3)



第14図 遺物実測図2 (1~4は1/6、5~7は1/4、8・9は1/3、10~13は2/3)



第15図 遺物実測図3 (11は原寸、ほかは1/3)

れる。

10は刀子である。鉄製と見られ、全長12.6cmで、厚さは4mmである。4区を精査中に壁中から出土した。単独の出土で、遺構のようなものは確認できなかった。

11はガラス玉である。直径3mmで、半透明の青色を呈している。刀子の付近から偶然発見したもので、これ1点のみであるが、本遺跡では出土例がなく非常に興味深い。

縄文土器については、おおよそ中期中葉のものが中心を占める。土器は全体的に小片が圧倒的で、いずれも磨滅の度合いが大きいものがほとんどである。また、時代に層位的な出土傾向はなく混在しており、これらは今回調査の大部分が流れ込みの影響を受けていることを示していると判断される。

石器についてはその他に小型の石錐や二次調整剥片など黒耀石製の石器が多く出土したが、定型的な石器は石鏃以外にはほとんど見られなかった。

刀子やガラス玉の出土については今回の調査では遺構も伴わず時期が判然としないが、何らかの宗教的行為が本遺跡かその近辺で行われたことが想定され、過去の調査では例がないため非常に興味深い。類例の増加を待つとともに、今後もこのような性格の遺物の存在についてよく注意して調査する必要がある。

【調査の成果と課題】

今回の調査は、結局全面発掘を取りやめ、上層のみの部分的な発掘調査となった。ほぼ褐色土中での調査であり、慎重な調査に努めたものの、遺構の検出や判定は非常に困難なものとなった。しかしながら遺構はともかく各時期にわたり多くの遺物が出土し、また深掘り部分では縄文時代と見られる遺構も確認され、本遺跡が濃密な遺構、遺物を包含していることが改めて確認された。特に、たとえば縄文時代早期など、これまで知られていなかった時期のものも含まれ、本遺跡はほとんど間断なく人々の活動の場であったことがわかり、その歴史的な位置づけも大きく広がるものと思われる。

しかしながら、本遺跡も開発の波が確実に押し寄せてきており、今後も本遺跡の重要性を浸透させ遺跡の保護に努めていきたい。

Ⅲ 粕田遺跡

- | | | | |
|---------|----------------|---------|----------------------|
| 1. 所在地 | 諏訪市大和2-3-20 | 5. 調査担当 | 中島 透 |
| 2. 調査期間 | 平成21年10月6日～7日 | 6. 検出遺構 | なし |
| 3. 調査面積 | 8㎡ | 7. 出土遺物 | 須恵器片（平安） 黒耀石片（縄文） |
| 4. 調査目的 | 個人住宅建設に先立つ試掘調査 | | |

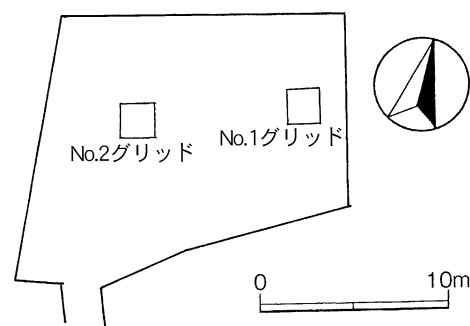
8. 調査概要

本遺跡は諏訪湖の東岸、下諏訪町との境近くを流れる千本木川が形成する扇状地上に位置する（第16図）。扇状地上部には台御堂、大和、漆垣外遺跡などが隣り合って存在し、本遺跡はその扇状地の末端部にあたる。この一帯は日当たりも良く遺跡の立地条件としては非常に良好と思われるが、本遺跡ではこれまで弥生時代の遺物が採集されているのみで調査がされたことはなかった。

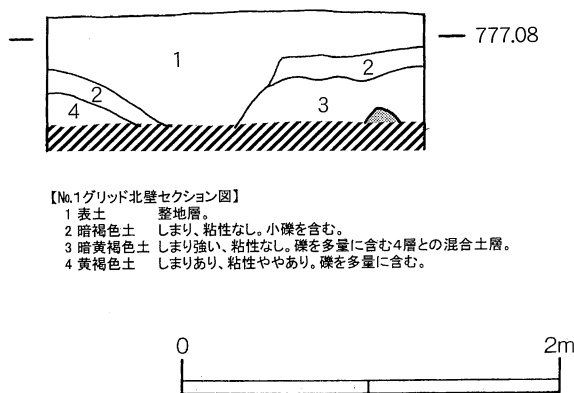
今回、遺跡北側の宅地で個人住宅の建替え計画があり、それに先立って試掘調査を行った。2m×2mの試掘坑を2箇所設定し、手掘りにより調査した結果（第17・18図）、若干の遺物が出土したが攪乱が著しく遺構は検出されなかった。本遺跡の調査は今回が初めてであるので、今後も遺跡の残存状況等についてデータの蓄積に努めたい。



第16図 遺跡位置図 (1/5000)



第17図 調査区位置図 (1/400)



【No.1グリッド北壁セクション図】

- 1 表土 整地層。
- 2 暗褐色土 しまり、粘性なし。小礫を含む。
- 3 暗黄褐色土 しまり強い、粘性なし。礫を多量に含む4層との混合土層。
- 4 黄褐色土 しまりあり、粘性ややあり。礫を多量に含む。

第18図 調査グリッドセクション図 (1/40)

IV 綿の芝遺跡

- | | | | |
|---------|-----------------|---------|------------------------|
| 1. 所在地 | 諏訪市岡村1-9397-3 | 5. 調査担当 | 中島 透 |
| 2. 調査期間 | 平成21年10月13日～14日 | 6. 検出遺構 | なし |
| 3. 調査面積 | 8㎡ | 7. 出土遺物 | 土器片、石器（縄文） 須恵器片（古代） |
| 4. 調査目的 | 個人住宅建設に先立つ試掘調査 | | |

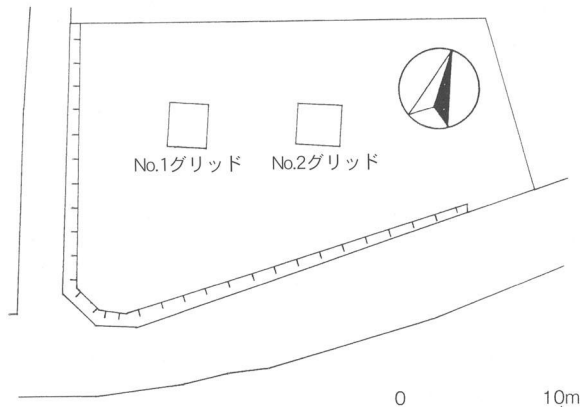
8. 調査概要

本遺跡は諏訪湖の東岸、すぐ背後に茶臼山丘陵を仰ぎ見る南麓の緩斜面上に位置する（第19図）。本遺跡はその範囲内にかつて古墳があり、大正3年（1914）に諏訪高等女学校の寄宿舎が建てられた際に多くの副葬品が出土したことで知られ、その時の出土品は市有形文化財に指定されている。しかしその後は特に調査はされておらず、古墳も上記の工事で消滅してしまっている。

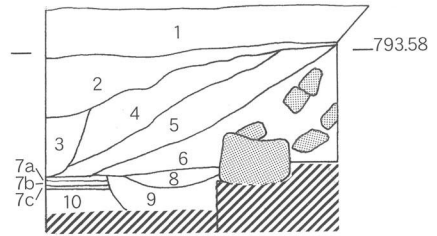
今回、遺跡中央部の宅地で個人住宅の建設計画があり、それに先立って試掘調査を行った。2m×2mの試掘坑を2箇所設定し、手掘りにより調査した結果（第20・21図）、遺構は検出されなかった。土層には大きな整地の痕跡が見られるため、これにより遺構が消滅したものと思われる。しかしながら遺物は8㎡の調査範囲としては比較的豊富で、興味深いものがある。一部を図示した（第22図）。



第19図 遺跡位置図（1/5000）



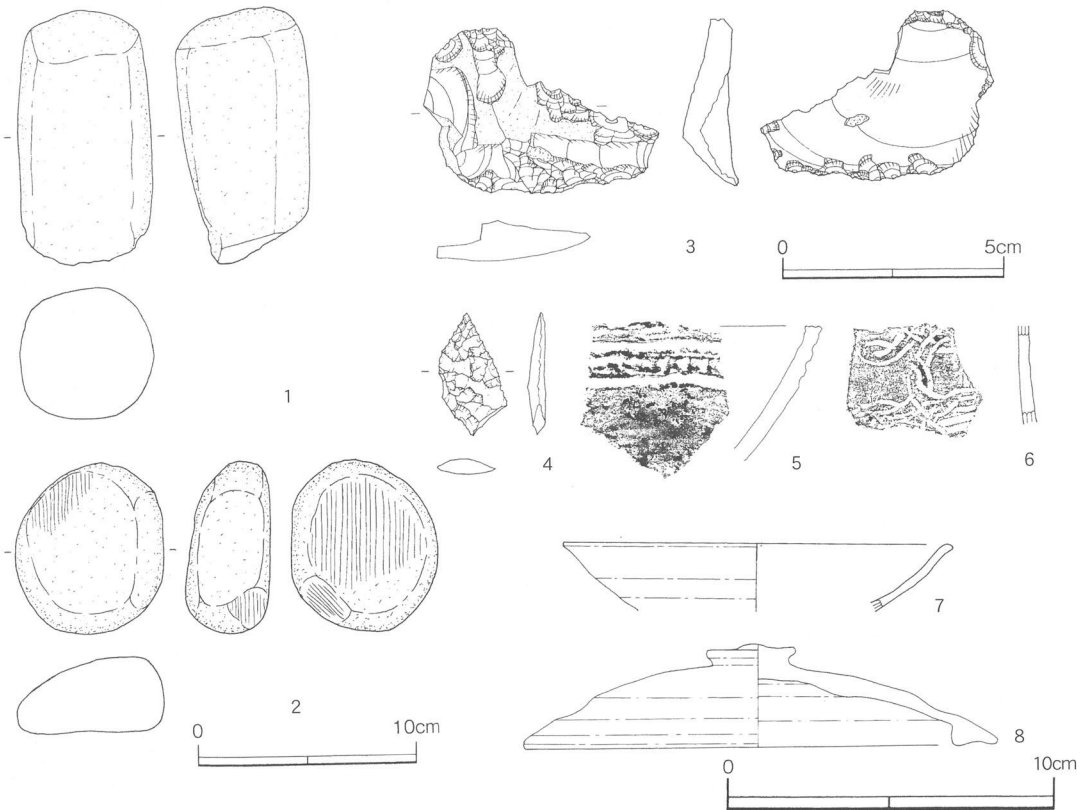
第20図 調査区位置図 (1/300)



【No.2グリッド西壁セクション図】

- 1 表土 整地層。
- 2 茶褐色土 しまり非常に強い。粘性ややあり。暗褐色土、鉄分、白色粒含む。
- 3 褐色土 しまり非常に強い。粘性ややあり。小礫若干含む。
- 4 暗褐色土 しまり、粘性弱い。礫を含むボソボソした層。
- 5 褐色土 しまり強い。粘性あり。黄褐色土をブロック状に含む。
- 6 暗褐色土 しまり、粘性なし。サラサラした土。礫を大量に含む。
- 7a 黄褐色土 粘性あり。しまりややあり。
- 7b 灰褐色土 しまり非常に強い。粘性弱い。
- 7c 暗黄褐色土 しまりなし。砂質。
- 8 灰褐色土 ゴミ穴か。
- 9 暗褐色土 しまりややあり。粘性あり。木炭粒若干含む。
- 10 褐色土 しまり強い。粘性あり。木炭粒若干含む。暗黄褐色土を斑に含む。

第21図 調査グリッドセクション図 (1/40)



第22図 遺物実測図 (1・2は1/3、3・4は2/3、5～8は1/2)

1は石棒状の石器、2は磨石である。3は二次調整のある剥片である。黒耀石製で、剥片末端部に調整が施されており、形状から石匙の未成品と思われる。4は石鏃である。黒耀石製で、両脚部に欠損しているが薄く精巧な作りである。5・6は縄文後～晩期の土器、7・8は須恵器である。

これらの遺物は整地層中の発見が多いので、全て本遺跡に関するものであるかどうかは検討を要するが、本遺跡に濃厚な遺物包含層があった可能性もあり、今後も周辺での開発に注意していく必要がある。

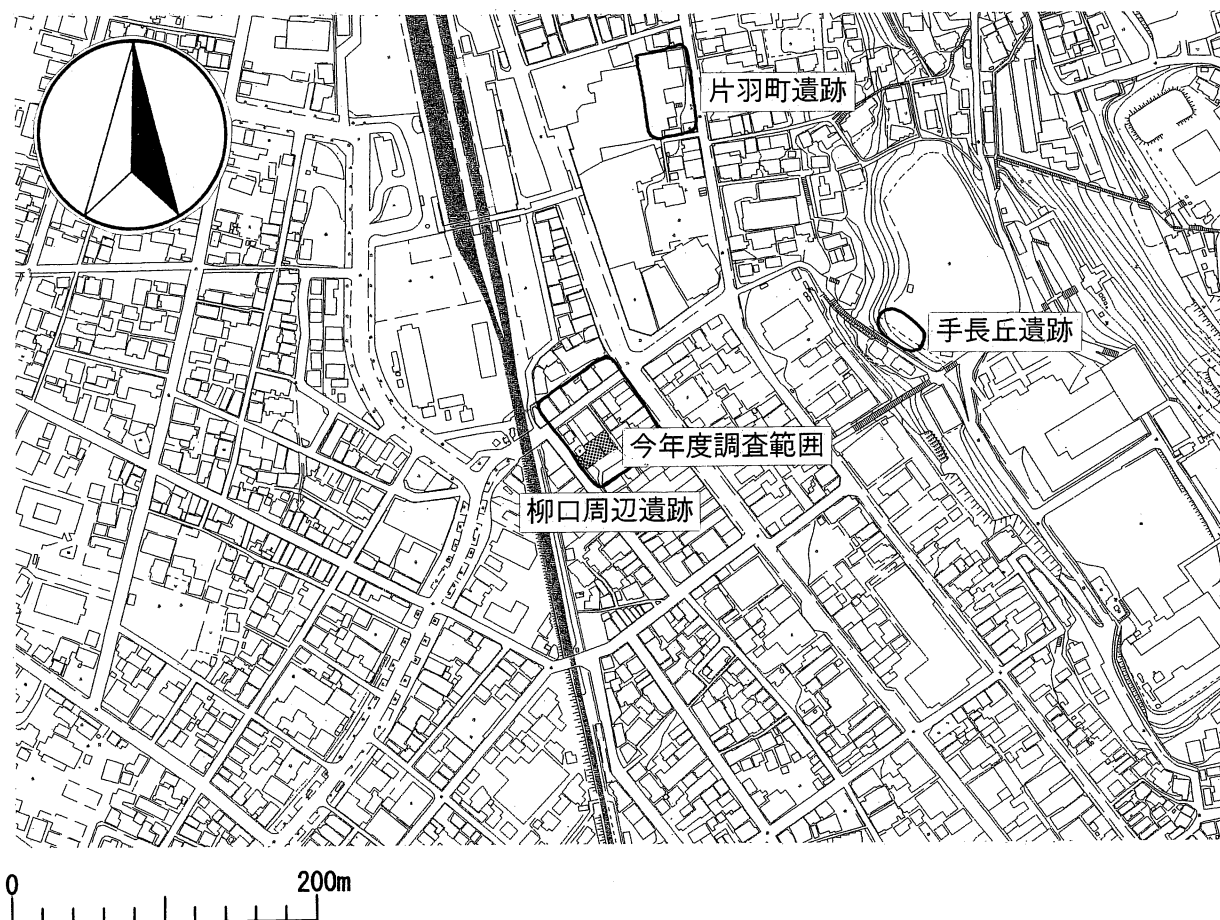
V 柳口周辺遺跡（第3次）

- | | | | |
|---------|------------------|---------|-------------|
| 1. 所在地 | 諏訪市上諏訪864-12 | 5. 調査担当 | 中島 透 |
| 2. 調査期間 | 平成21年12月14日～15日 | 6. 検出遺構 | なし |
| 3. 調査面積 | 11m ² | 7. 出土遺物 | 陶磁器片（近世～近代） |
| 4. 調査目的 | 公園整備に先立つ試掘調査 | | |

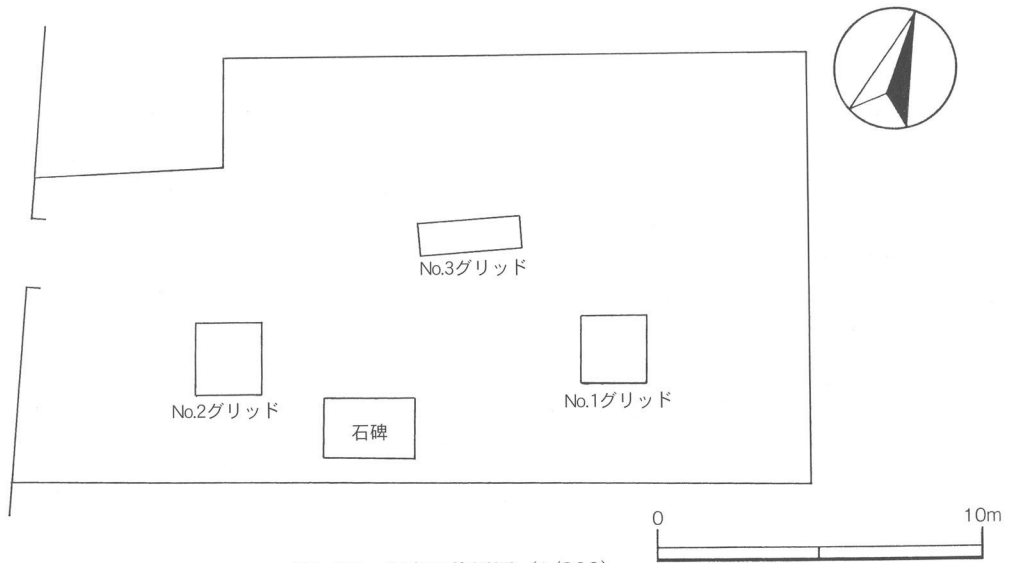
8. 調査概要

本遺跡は諏訪湖の東岸、現在の上諏訪の市街地内に位置する（第23図）。高島藩の「柳口役所」があった場所として、平成20年度に街路事業に先立って遺構の有無確認調査を行った結果遺構が確認され、新たに登録された遺跡である。遺跡の一角には明治時代にここにあった高島学校に明治天皇が行幸で休息した故事により昭和12年（1937）までに整備された記念公園（明治聖園）がある。

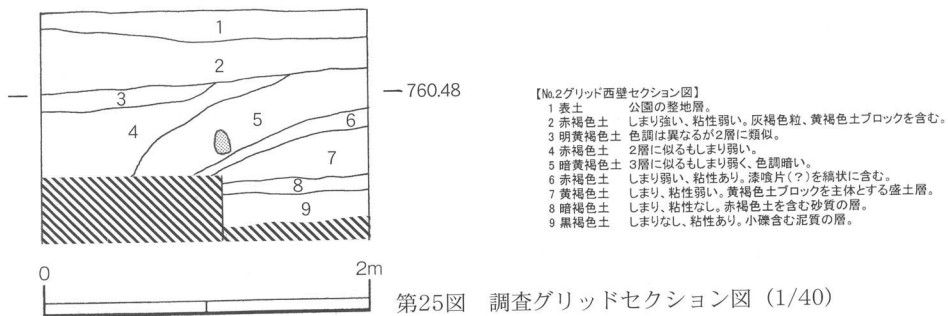
今回、この公園を改めて整備することになり、それに先立って試掘調査を行った。2m×2mの試掘坑を2箇所および1m×3mの試掘坑を1箇所設定し、重機と手掘りにより調査した結果（第24・25図）、遺構は検出されなかった。近代とみられる厚い整地の層が認められ、この際に遺構は破壊されたものと思われる。ただし、遺物が若干出土しているので第26図に図示した。



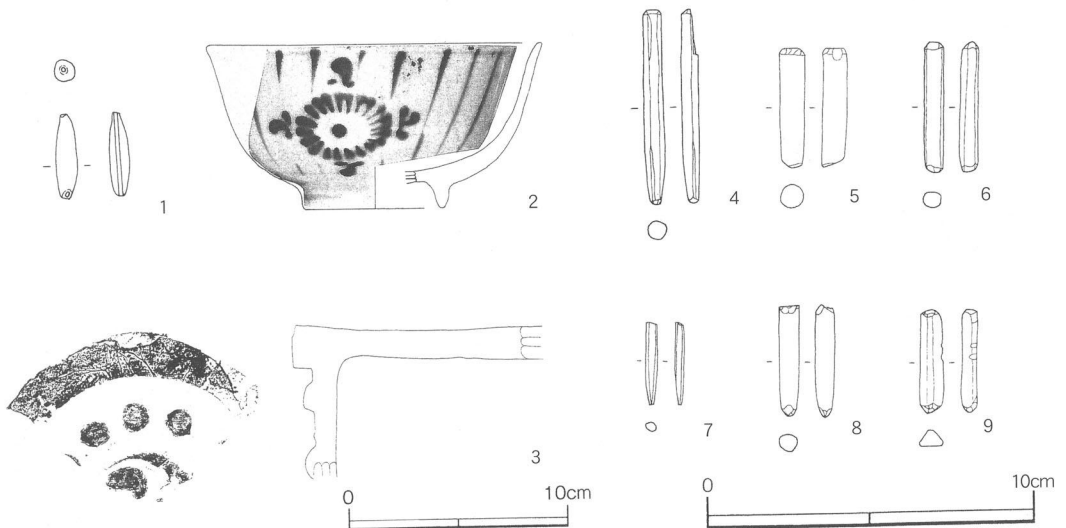
第23図 遺跡位置図（1/5000）



第24図 調査区位置図 (1/200)



第25図 調査グリッドセクション図 (1/40)



第26図 遺物実測図 (1/2)

1は土錘で、平安～中世のものとするれば興味深い。2は近世の磁器、3は軒丸瓦の破片である。4～9は石筆で、No.2グリッドの整地層中の落ち込みから70点以上が集中して出土した。これは第1・2次調査で発見された点数よりも多く、これが高島学校に關係する遺物であることは想像に難くない。

本遺跡は昨年度新たに登録した遺跡であり、市街地内における遺跡調査そのもののデータもまだ充分ではないため、今後も機会を捉えて市街地内での調査も精力的に進める必要がある。

VI 金子城跡遺跡（第8次）

- | | | | |
|---------|----------------|---------|------------|
| 1. 所在地 | 諏訪市中洲3968-1 | 5. 調査担当 | 中島 透 |
| 2. 調査期間 | 平成22年1月12日 | 6. 検出遺構 | なし |
| 3. 調査面積 | 8㎡ | 7. 出土遺物 | 陶器片（古代、近世） |
| 4. 調査目的 | 個人住宅建設に先立つ試掘調査 | | |

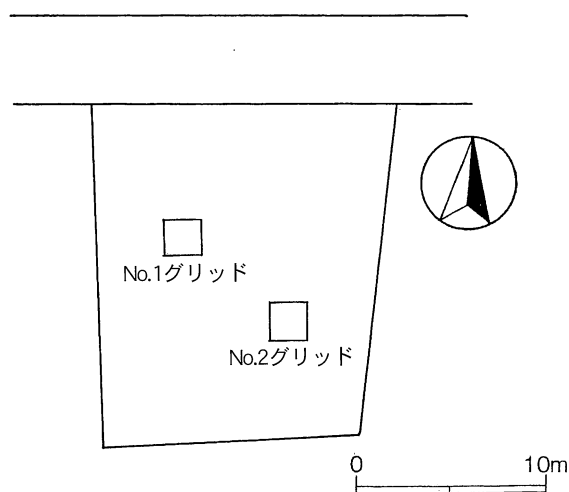
8. 調査概要

本遺跡は諏訪盆地の中央部、宮川の流れが大きく屈曲するその内側に位置する（第27図）。戦国時代に武田氏、織田氏の滅亡後に諏訪を奪還した諏訪頼忠が築いた城とされる。その後、豊臣秀吉の部将日根野高吉の高島城築城の際に、築城の用材として取り壊して材を運び出したといい、現在は城とわかるものは何も残っていない。

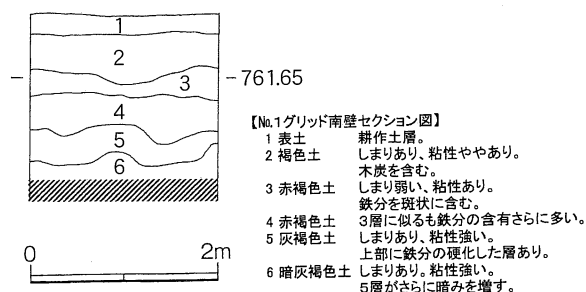
今回、遺跡南側の宮川沿いの畑地で個人住宅の建設計画があり、それに先立って試掘調査を行った。2m×2mの試掘坑を2箇所設定し、手掘りにより調査した結果（第28・29図）、遺物が若干出土したが遺構は発見されなかった。金子城については未だ城郭に関する明確な遺構が発見されておらず、今後もきめ細かい調査を行い、早い段階での遺構の把握が必要と考えられる。



第27図 遺跡位置図（1/5000）



第28図 調査区位置図（1/400）



第29図 調査グリッドセクション図（1/80）

報告書抄録

| ふりがな | しないいせきはつくつちようさほうこくしょ | | | | | | | |
|----------------------|--|--------|--------------|-------------|-----------------------|-------------------------------|-----------|---------------|
| 書名 | 市内遺跡発掘調査報告書 | | | | | | | |
| 副書名 | 平成21年度諏訪市内遺跡発掘調査報告書 | | | | | | | |
| 巻次 | | | | | | | | |
| シリーズ名 | 諏訪市埋蔵文化財調査報告 | | | | | | | |
| シリーズ番号 | 第66集 | | | | | | | |
| 編著者名 | 中島 透 | | | | | | | |
| 編集機関 | 諏訪市教育委員会 | | | | | | | |
| 所在地 | 〒392-8511 長野県諏訪市高島1-22-30 Tel.0266(52)4141 | | | | | | | |
| 発行年月日 | 2010年3月25日 | | | | | | | |
| ふりがな 所収遺跡 | ふりがな 所在地 | コード | | 北緯 ° ' " | 東経 ° ' " | 調査期間 | 調査面積 ㎡ | 調査原因 |
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| あなば 穴場遺跡 | すわし かみすわ 諏訪市上諏訪 | 20,206 | 26 | 36° 02' 40" | 138° 07' 50" | 2009.7.29 ～ 2009.9.1 | 56.2 | 個人住宅建設に係る事前調査 |
| もみだ 靱田遺跡 | すわし おわ 諏訪市大和 | 20,206 | 3 | 36° 03' 15" | 138° 07' 01" | 2009.10.6 ～ 2009.10.7 | 8 | 個人住宅建設に係る事前調査 |
| わたのしば 綿の芝遺跡 | すわし おかむら 諏訪市岡村 | 20,206 | 30 | 36° 02' 28" | 138° 07' 37" | 2009.10.13 ～ 2009.10.14 | 8 | 個人住宅建設に係る事前調査 |
| やなぎぐちしゅうへん 柳口周辺遺跡 | すわし かみすわ 諏訪市上諏訪 | 20,206 | 56 | 36° 02' 29" | 138° 07' 13" | 2009.12.14 ～ 2009.12.15 | 11 | 公園整備事業に係る事前調査 |
| かねこじょうあと 金子城跡遺跡 | すわし なかす 諏訪市中洲 | 20,206 | 359 | 36° 00' 30" | 138° 07' 05" | 2010.1.12 | 8 | 個人住宅建設に係る事前調査 |
| 所収遺跡 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | | 主な遺物 | | 特記事項 | |
| 穴場遺跡 | 集落跡 | 縄文～近世 | 焼土址、ピット、床状遺構 | | 土器片、黒耀石片、陶器片、 金属製品 | | | |
| 靱田遺跡 | 散布地 | 縄文～平安 | なし | | 須恵器片、黒耀石片 | | | |
| 綿の芝遺跡 | 散布地 | 縄文～近世 | なし | | 土器片、陶器片、石器、 金属製品 | | | |
| 柳口周辺遺跡 | 役所跡 | 近世～近代 | なし | | 陶磁器片 | | | |
| 金子城跡遺跡 | 城館跡 | 古代～近世 | なし | | 陶器片 | | | |
| 要約 | <ul style="list-style-type: none"> ・穴場遺跡：個人住宅建設に伴い発掘調査を実施。上層から時期不明の遺構が、また下層に縄文時代と見られる遺構の残存を確認。下層部分は現状保存とし、上層の遺構について記録保存を行った。 ・靱田遺跡：個人住宅建設に伴い試掘調査を実施。遺物がわずかに出土したが、遺構は発見されず。 ・綿の芝遺跡：個人住宅建設に伴い試掘調査を実施。遺構は発見されなかったが遺物は多く注意を要する。 ・柳口周辺遺跡：公園整備事業に伴い試掘調査を実施。遺物が若干出土したが、遺構は発見されず。 ・金子城跡遺跡：個人住宅建設に伴い試掘調査を実施。遺物がわずかに出土したが、遺構は発見されず。 | | | | | | | |



穴場遺跡調査風景（1～4区）



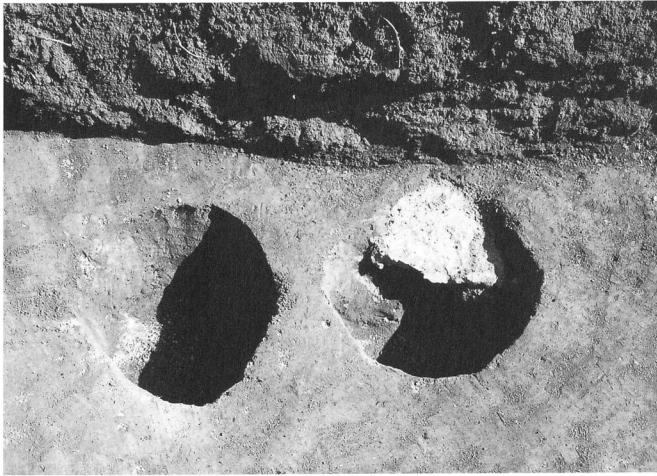
基本土層（2区深掘り）



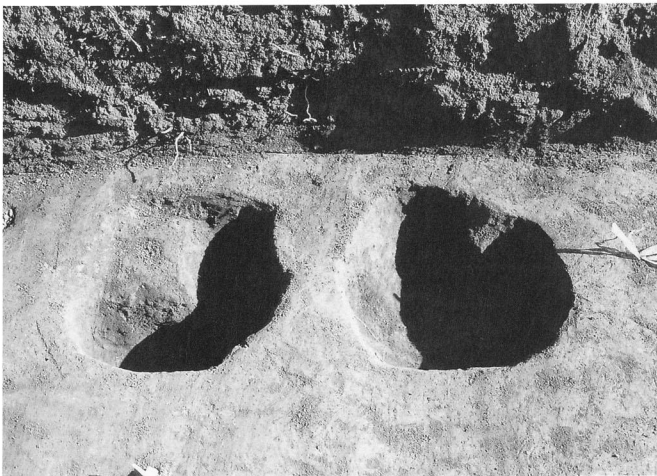
1区縄文時代遺構



1区焼土址 (半裁)



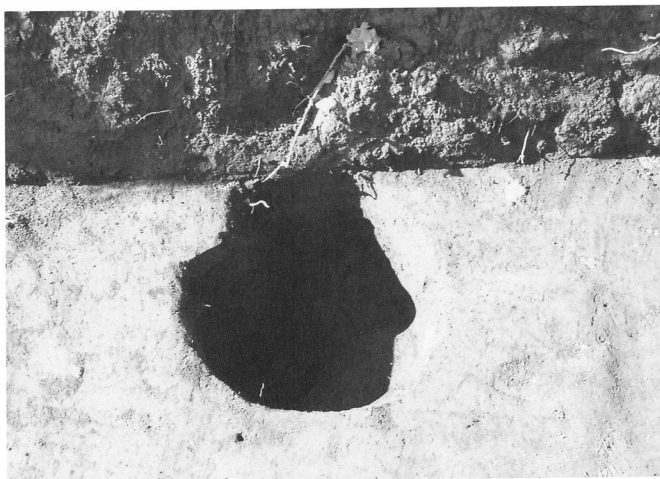
2区1・2号ピット



2区3・4号ピット



2区5号ピット



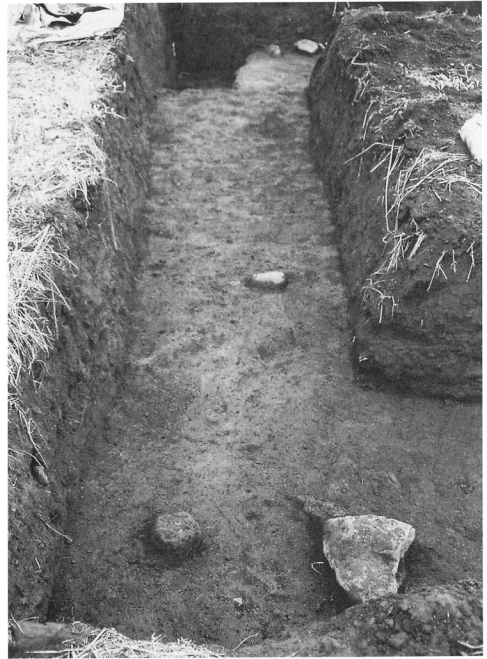
2区6号ピット



3区焼土址 (半裁)



1区検出状況



2区検出状況



3区検出状況



4区検出状況



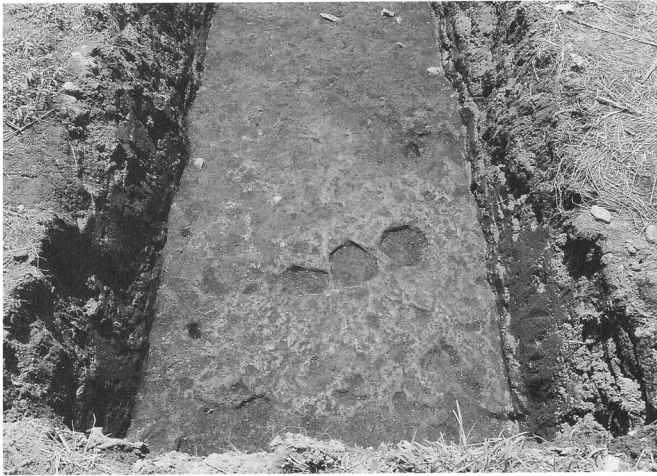
穴場遺跡調査風景（5・6区）



5区検出状況



5区縄文時代遺構



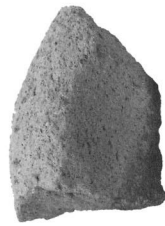
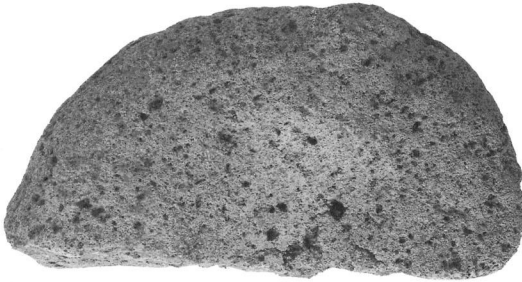
5区床状遺構



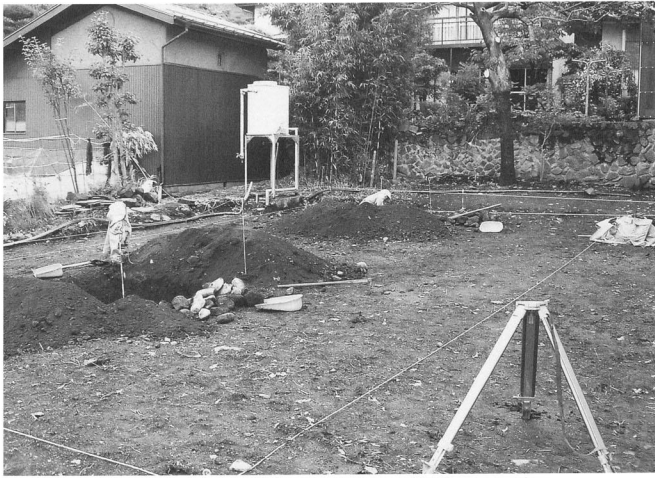
6区礫集中状況



6区石皿出土状況



出土遺物 (縮尺不同)



初田遺跡調査風景



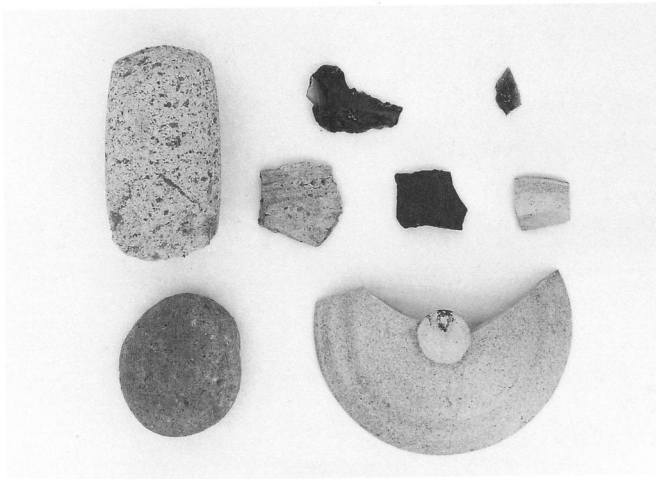
No.1 グリッド完掘状況



綿の芝遺跡調査風景



No.2 グリッド完掘状況



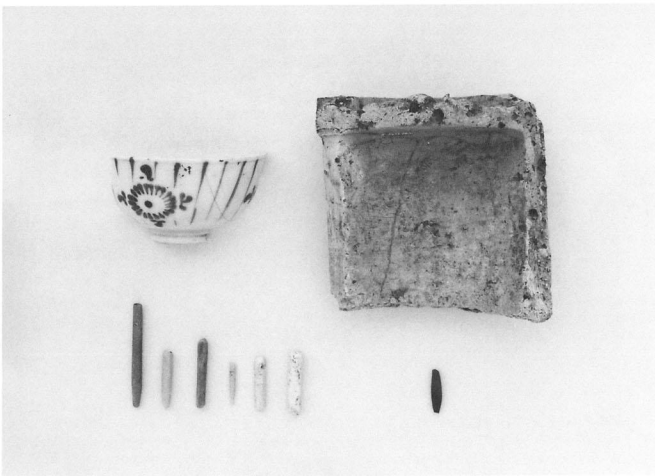
出土遺物



柳口周辺遺跡調査風景



No.2 グリッド完掘状況



出土遺物



出土遺物 (石筆)



金子城跡遺跡調査風景



No.1 グリッド完掘状況

市内遺跡発掘調査報告書（平成21年度）
—長野県諏訪市内遺跡発掘調査報告書—

平成22年3月25日

編集・発行 長野県諏訪市高島1-22-30
諏訪市教育委員会
印刷 株式会社オノウエ印刷